

新生山梨大学がめざすもの

山梨大学副学長 伊藤 洋

山梨大学と山梨医科大学は〇二年九月三十日をもって閉学し、翌十月一日、両大学を統合した新生「山梨大学」として再出発した。これは国立大学のみならず私学を含む我が国高等教育史上はじめてのことであり、大いに世間の耳目を集めるところとなった。そして、このことがトリガーとなって、国立に限っても単科医科大学とその地元総合大学との統合が今年だけで十地域二十大学において行われることとなっている。

本学の統合については珍しさが先立って、「なぜ統合か」ということについて必ずしも世間の理解は完璧ではないようである。昨今の大銀行の合併と同様、とりあえず規模を大きくしておけば潰されないで済む、だからこれは大学の「生き残り」政策だ、などという半可通な解説をする大新聞の論評などが主要なものだ。そしてこれは大間違いである。私たちが統合を考えた最大の理由は、「知の枠組みの拡張」というほかに壮大な挑戦をしたかったからに他ならない。

そもそもこの国の大学システムは、百三十年前においてすではるかな長い歴史を持った欧米の大学制度を直輸入する形で創設された。ルネッサンス以来知の拡大を専らとして発達してきた欧米の大学は、それなりの必然に導かれて専門分化していたのだが、日本は明治に至ってそれを既製品として分化したまま輸入したのである。その結果、電気工学や化学工学は独国に、機械工学はイギリスにそのモデルを求めた。また、医学は総じて独国に範を採った。文学は英国に原型を求め、芸術は仏国に憧れた。つまり、創設の当初から専門分化したものとして諸学が導入されてしまったのである。その結果、それぞれの学問にはそれぞれの文化やジャーゴンともいべき専門用語が使われ、バベルの塔伝説よろしく学問分野ごとに言語を異にする有様となってしまうたのである。

「新生」山梨大学は、このような文化の違いを超えて学の統合を図り、そこから新たな学問領域を創造しようという確固とした目標を持って出発した。その具体的な第一弾として、全国の大学に先駆けて「医学工学総合研究科」を今年四月には創設することとしている。これは、医学と工学を掛け合わせる（たし合わせるのではなく）ことによつて、新種の学問を創生していこうという目論見である。これによつて、山梨大学現医学部と現工学部は、大学院を主体とした大学に変身し、工学技術のプロであつて医療活動や医療技術に就業したり、医者や看護師でありながら工学技術のエキスパートとなったりすることが可能な高度専門職業人への道が用意される。

ところで、いま日本経済は断末魔の様相を呈している。欧米に「追いつけ、追い越せ」のキャッチアップ型経済はもはや限界にあつて、大学から新技術が創出され、それが産業界に渡される形のフロントランナー型経済に移行できなければ、一層衰微することは目に見えている。ここにきて時代のキーワードは、「有形財産」から「無形財産」知的財産へと急激に変化している。これに呼応して政府は先の国会で「知的財産基本法」を制定した。知財時代の主役は圧倒的に大学であり、大学を中核とする地域クラスターの構築こそが焦眉の急なのである。

こういふ時代の到来を予見して山梨大学では統合後を視野に入れながら、二つの大学間で全国でも珍しい大学教職員のみの出資による技術移転機関 TLO (Technology Licensing Organization) として「株式会社山梨ディー・エル・オー」を〇〇年八月に設立した。すでに二十余件の特許を申請し、一億円にのぼる共同研究を地域企業との間で行い、数件のロイヤリティを実施許諾し、また一部は企業連合を作つて国の支援を得ながら製品開発に着手し、今年中にも初出荷が可能レベルまで来ているものもある。

また、〇二年初冬には医学部から二つの大学発ベンチャー企業も創業させたが、これは国の研究成果活用事業の規制緩和後国内最初の例となつた。

ところで、このような一連の流れは、元来米国の大学からのいわば文化の直輸入でもある。「観念の意味

と真理性は、それを行動に移した結果の有効性いかんによって明らかにされる」というプラグマティズム思想、あるいは「人間の知的活動は環境に適応してゆくための方式であり、概念や真理などは生活過程での障害をとりのぞくための道具にほかならない」とするインストルメンタリズム（道具主義）が米国のアカデミズムには色濃く存在している。シリコンバレーはその真骨頂でもある。

日本の大学は、いま創設以来最大の難所にあり、改革の真つ只中にあるが、米国に対抗できるダイナミックなアカデミズムを創造できるかどうかが問われている。山梨大学は、それへの挑戦を今年も継続してやっっていく。これが成功するためには、地域の皆さんの熱烈な声援と、地方自治体の積極的な参画、産業界の協働がぜひとも必要である。紙面を借りてお願いしたい。